



季節の花便り:ひたちなか市の「ハマギク」  
10月23日(月)、24日(火)発生の低気圧による園内の状況

について

謹啓 仲秋の候 皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、現在、園内の砂丘エリアでハマギクが見頃を迎えております。本公園は、「花の公園」として、スイセンにはじまり、ネモフィラそしてコスモスなど大規模な花畑が目立ちますが、松林に生育するオオウメガサソウや、スカシユリを代表とする砂丘に生きる海浜植物等、希少種のほか特色ある花をご覧いただけることでも皆様から支持をいただいております。“ハマギク”は、本公園所在地であるひたちなか市の花に指定され、本公園とは縁の深い花です。園内のハマギクは昨日の低気圧の影響は少なく現在、盛りで11月上旬までご覧いただけます。一方23、24日に発生した低気圧による影響により、4～5分咲きまで回復していたみはらしの丘のコスモスは、残念ながら壊滅的なダメージを受けました。今後、満開を望む回復は絶望的なものの、同所からは紅葉する草「コキア」のほか、標高58mからの太平洋を臨む360度パノラマの眺望をお楽しみいただけます。また、秋バラが花の女王に恥じない芳香を放っており、こちらも香りとともに絢爛な花姿をお楽しみいただけますのであわせてご案内申し上げます。

つきましては、皆様には御多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願い申し上げます。 謹言



撮影:平成18年10月25日

お問い合わせ先

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4  
ひたち公園管理センター企画課 穂積・田中・小池  
電話(029)265-9005 FAX(029)265-9339  
お客様問い合わせ番号(029)265-9001  
ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp>

# 「ハマギク」について



ハマギク : *Nipponanthemum nipponicum*  
(キク科 多年草)

場所: 砂丘エリア(最寄口は海浜口)

原産: 日本

時期: 10月上旬 ~ 11月上旬

日本原産のキクは地域ごとに固有種として分化していますが、中でも海に因み「イソ」「ハマ」を冠したイソギク、ハマギクは観賞価値が高く、海浜公園を彩る野生のキクとして、砂礫ガーデンの風景に溶け込むように植栽しています。

自生地である崖の風情どおり、砂礫丘の石の続く中で、ひとときわ白く鮮やかな彩りを見せています。

ハマギクは、本州北部の太平洋岸に分布し、岸や砂浜に生える清楚な花で、公園近くの磯崎にも自生していると言われています。世界的に知られるシャスターデージーは、このハマギクとヨーロッパ産のフランスギクとの交配種です。



## 10月23日(月)、24日(火)発生の低気圧による園内の状況

平成18年10月25日 低気圧通過直後の「みはらしの丘」の状況



撮影:平成18年10月25日(水)、2日間にわたった暴風雨の影響でほぼ壊滅的なダメージを受けた



撮影:平成18年10月21日(土)低気圧直撃前の4~5分咲きまで回復した状態。

### 24,25日の低気圧による園内の被害状況

幹周り80cmになるうかというマツの枝をはじめ、数十本もの樹木の枝を折ったほか雑木の倒木、枝葉の散乱があり、これらは現在も撤去中です

今月発生した6日の低気圧によるコスモスへの被害は大きいものの、台風対策として、実施している「筋まき」「切り戻し」による工夫がなければ、さらに被害は甚大なものになっていたと思われます。しかしながら、今回の23、24日に受けた低気圧の影響は甚大で満開の状態を望むことはほぼ難しい状況です。

現在の状況はホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp> でご覧頂くことができます。

平成18年10月25日 現在、園内でご覧いただけるお奨めの花々

## 紅葉する草「コキア」



コキア: *Kochia scoparia*  
(アカザ科 ホウキギ属)

場所: みはらしの丘東斜面 最寄り口は海浜口  
原産: 南ヨーロッパなどといわれ、中国から渡来。  
面積: 500m<sup>2</sup>  
株数: 4,000株  
時期: 紅葉は9月下旬～11月上旬

コキアは、和名をほうき草と称し、その名のとおり枝や茎を乾燥させてほうきを作ることに由来します。

実は「とんぶり」と呼ばれ、食用になります。形や色、歯ざわりがキャベツに似ていることから、“畑のキャベツ”“日本のキャベツ”とも呼ばれています。名産地は秋田で、和え物や酢の物などに使われます。

海浜公園では、秋の新たな景観創出として、昨年初めて試験的に導入しました。来年は、みはらし丘全体をこのコキアが覆う予定です。



## 花の情報 茨城の花「バラ」

花の女王“バラ”は、茨城県の名前の由来ともなっている「県花」であり、ひたち海浜公園のローズガーデンも、バラの愛好家からは「県内では指折りの名所」と評価も高く、知る人ぞ知る隠れたバラの名所と自負しております。秋のバラは、香りがよく花姿だけでなく、その芳香をたのしんでいただけます。



撮影:平成 18 年 10 月 25 日(水)

### 【ひたち海浜公園 ローズガーデンについて】

ローズガーデンは平成3年10月の海浜公園のオープンとともに、数多くのお客様にお楽しみいただいています。ガーデン内には122品種4,000株(2,500㎡)のバラが植えられており、海からの強い風からバラを守るために、周囲はウバメガシの高垣で囲われ、ガーデン全体はアーチや噴水のある西洋庭園風となっており、まるで“秘密の花園”のような雰囲気醸しています。

バラはスタンダード仕立てやポール仕立てとなっており、例年5月下旬～6月中旬(初夏)と、9月中旬～10月上旬(秋)の2シーズンに開花します。

### 【バラのミニ情報】

バラは、茨城県の名前の由来ともなっている「県花」で、日本の文献「常陸國風土記」に最初にバラが紹介されたのが常陸のバラです。また、茨城県はバラ科の海浜植物であるハマナスの自生地(南限)でもあります。現在園芸品種は3万種以上と考えられていますが、その元となったのは約120種ある野生種のわずか8種類とされており、その組み合わせによって現在のさまざまなバラができあがりました。